

しかし、ある程度の計画策定能力を持った国では、自から NTFAP を作成し、ワークショップ、ラウンドテーブル、セミナー等に、先進国、国際機関よりの専門家を招き、内容の検討を行うという場合があり、本格調査団の派遣は省略される。

我が国はこれまで、カメルーン、ペルー、パナマへの本格調査団及びホンジュラスのラウンドテーブルへ専門家を派遣してきている。また今後も、農林省による FAO への拠出金により当該活動の支援を行っていくとともに、要請に応じ専門家の派遣を行うこととしている。

今後、ネパール、ラオス、マレーシア、ブルキナファソ、コンゴ、ガーナ、ギニア、モーリタニア、シェラレオーネ、タンザニア、アルゼンチン、ボリビア、コスタリカ、ドミニカ、エクアドル、メキシコ、ニカラグア等において NTFAP に係る活動が開始される予定となっている。

新刊紹介

◎オーストラリアクイーンズランド州北部の熱帯降雨林 (Australian Heritage Commission, ed.: Tropical Rainforests of North Queensland—Their Conservation Significance. 195 pp., 1986. Australian Government Publishing Service. 邦貨約 3,900 円)

オーストラリアの北東部、クイーンズランド州の海岸部に約 20,000 km² にわたって熱帯降雨林が広がっている。この地域は年間降水量が 4,000 mm に達するところもあるが、その約 60% が 4 か月にまとまって降り、また、気温の面でも赤道付近の真の熱帯地域と異なり、明確な季節変化がある。このように降雨林としては限界地に成立しており、典型的な熱帯降雨林とはいえない。しかし、この降雨林は、他の熱帯降雨林にはみられない数多くの特徴をもっている。オーストラリア大陸自体が極めてユニークな生物相をもっていることはよく知られているが、この森林には、その現存するオーストラリアの生物の過去の進化の段階における遺存種が混在している。たとえばオーストラリアの広葉樹の大部分の原型がここに見いだされ、*Eucalyptus* の先駆種と考えられる属もこの森林内に見つかっている。

本書はオーストラリア遺産委員会が、降雨林の重要性を広く世に訴えるために出版したものである。過去の地質的な変動に伴う進化の各段階が現存する動植物相に刻み込まれている点、非常に興味深い森林であるが、学術的に体系だっただけの特質を明らかにしようとしたものではない。この地のみで見つかる貴重な種、絶滅の危機にさらされている種が目録的に紹介されている。

(阿部健一)